

## 2007 年度秋季大会の告示

### I. 大会の案内

1. 期 日  
2007 年 10 月 14 日 (日) ~ 16 日 (火)  
第 3 日 (10 月 16 日)  
午前：口頭, ポスター  
午後：口頭
2. 会 場  
北海道大学学術交流会館・地球環境科学研究院ほ  
か (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
3. 研究発表  
口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の  
詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参  
照下さい。
4. 大会日程  
大会は以下の日程で行われる予定です。  
第 1 日 (10 月 14 日)  
午前：口頭  
午後：シンポジウム, ポスター  
第 2 日 (10 月 15 日)  
午前：口頭  
午後：口頭, 授賞式, 受賞記念講演, 懇親会
5. シンポジウム  
大会第 1 日 (10 月 14 日) の午後開催予定です。  
テーマは「雪氷圏から語る気象と気候」です。
6. 懇親会  
大会第 2 日 (10 月 15 日) の夕刻に, サッポロピ  
ール園 (札幌市東区北 7 条東 9 丁目 2-10) にて開催  
予定です。
7. 大会ウェブサイト【2007 年 6 月 12 日 (火) 開  
設予定】  
本大会では, 講演申込み受付や大会プログラムの  
掲載などを行うための大会ウェブサイト, 2007 年  
6 月 12 日 (火) より開設する予定です。URL 等の詳  
細につきましては, 気象学会ホームページ  
(<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>) をご参照下さい。

### II. 大会参加手続き

#### 1. 講演を行う場合の参加申込方法

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで  
行って下さい。 オンラインで予稿原稿を送付できな  
い場合や, クレジットカードによるオンライン決済  
ができない場合など, 止むを得ない事情がある場合  
は, 郵送による申込を受け付けます。

なお, 大会参加登録・参加費支払済みであることを  
講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。

##### 1.1 オンラインによる申込

- ・ 締切：2007 年 7 月 24 日 (火) 15 時 (日本時間)
- ・ 大会ウェブサイト参照し, 指示に従って申し込  
みをして下さい。
- ・ 大会ウェブサイト上で最初に個人情報の登録を行

い, ID とパスワードを取得します (前回取得した  
ID とパスワードはそのまま利用することはできま  
せん。お手数ですが, 改めて個人情報の登録と ID・  
パスワードの取得を行って下さい)。この ID とパ  
スワードを元にシステムにログインし, 大会参加  
登録・講演申込・予稿送付・大会参加費決済など  
を行います。

- ・ 講演申込の前に, 予め大会参加登録と大会参加費  
の払込 (クレジットカード決済) をして下さい。  
大会参加登録と大会参加費の決済が行われていな  
い場合, 講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には, 個人情報登録者本人以  
外の名義のクレジットカードも使用可能です。

- ・予稿原稿もウェブサイトを通じて送付して下さい。ファイル形式はPDF（容量の上限は1MB）に限ります。
- ・講演申込み締め切り（7月24日（火））までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。

## 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2007年7月17日（火）必着  
（オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください）
- ・以下の3点を講演企画委員会事務局（下記）までお送り下さい。
  - ① 予稿原稿
  - ② 講演者氏名（漢字とローマ字）、会員番号、講演種別、講演者連絡先（住所・電話番号・E-mail アドレス）、講演題目、主・副キーワードと、使用機器を書いたもの（様式は自由です）
  - ③ 郵便振替払込受領証（次項参照）
 送付先：
 

〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1  
 気象研究所予報研究部内  
 気象学会講演企画委員会事務局  
 （封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。）
- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
  - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
  - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
    - ①「日本気象学会 2007年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②会員番号（会員でない場合は「非会員」と明記）
    - ③大会参加種別（講演者Aまたは講演者B）
    - ④大会参加費金額
    - ⑤懇親会費金額
    - ⑥合計金額
  - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担でお願いします。

## 1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意ください。
- ・大会当日に講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会（kouenkikaku2007a@mri-jma.go.jp）までご相談下さい。

## 2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

### 2.1 オンラインによる申込

2007年9月11日（火）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む（クレジットカード決済）。

### 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・2007年9月4日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込む。
  - －口座番号は「00130-3-5958」、加入者名は「日本気象学会」です。
  - －「通信欄」に以下の項目を記入して下さい
    - ①「日本気象学会 2007年度秋季大会参加申込」と明記
    - ②大会参加種別（聴講者）
    - ③大会参加費金額（3,000円）
    - ④懇親会費金額
    - ⑤合計金額
  - －「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
  - －払込料金は本人負担でお願いします。

### 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

### 3. 参加費，懇親会費

#### 3.1 大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし，学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

#### 3.2 懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	5,500 円
学生	4,500 円	5,000 円

- 懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。また当日会場で支払うことも可能ですが，当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

#### 3.3 その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 大会参加費・懇親会費の種別は，支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

## Ⅲ. 予稿原稿作成要領

### 1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

### 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか，別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

### 3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は，明瞭度が落ちる場合があるのでご注意ください。

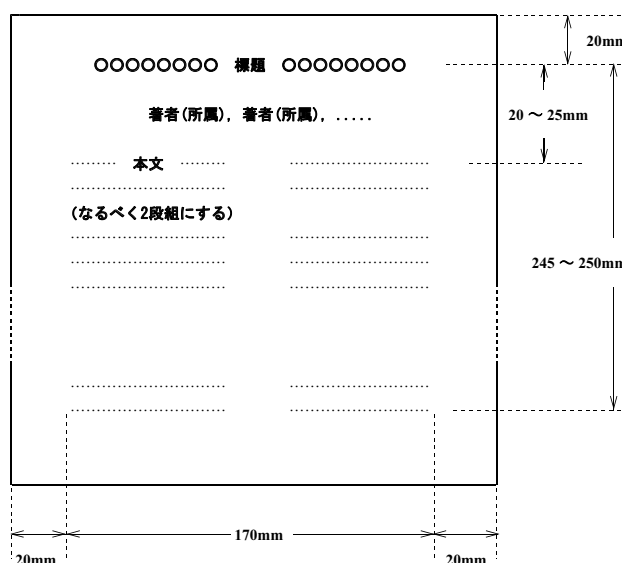
### 4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし，上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に標題，その下に著者と所属を書き，本文をその下につけて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。標題から本文までの間隔は 20～25mm として下さい。本文はなるべく 2 段組（左半分→右

半分）にして下さい。

### 5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は（社）日本気象学会に帰属します。



図： A4 判用紙による予稿原稿の作成要領

## IV. 研究発表要領

### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表（スペシャル・セッションを含む）とポスター発表の2種類があります。

### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法（口頭/ポスター）につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1 件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

### 5. スペシャル・セッションの概要

スペシャル・セッション（内容についての詳細は「V. スペシャル・セッションのご案内」参照）に申し込まれた発表については、世話人が予稿を審査して、スペシャル・セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。発表方法は口頭発表に準じますが、世話人の判断により、講演持ち時間について若干の変更があり得ます。

スペシャル・セッションに申し込まれた発表が、世話人によってスペシャル・セッションに適さないと判断された場合には、一般の口頭発表に振り替えます。

なお、スペシャル・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は 7 月 24 日（火）、郵送申込は 7 月 17 日（火））です。

### 6. ポスター発表の概要

- ポスター発表の時間は 1 時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- 掲示スペースは縦 180 cm×横 90 cm 程度です。なお、ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

### 7. 講演における機器の使用について

- 口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PC プロジェクターと OHP が使用できますが、それ以外の機器は使用できません。
- OHP を使用したい場合は、講演申込時に届け出てください。講演申込時に届けがない場合は PC プロジェクターを用いた発表とみなします。
- PC プロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。
  - パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出てください。
  - 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。また、場合によっては OHP による発表に切り替えさせて頂くこともあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備や OHP シートの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。
- ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。
- ポスター発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合により口頭発表に振替になった場合を想定して、口頭発表時の使用機器の届出をお願いします。

## 8. その他

- ・申込まれた予稿の内容が、(ア) 気象学とは全く無関係である、(イ) 極めて非合理的・非論理的である、(ウ) 他者を誹謗中傷する部分がある、等の理由により、講演を認めることが適当でない講演

企画委員会が判断した場合には、講演を認めないことがあります。

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。

## V. スペシャル・セッションのご案内

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の5件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

### 1. 「産業と気象 ～気象情報・技術の産業への寄与を考える～」

**趣旨：**気象（気候）が産業に及ぼす影響は大きく、気象（気候）の調査・研究成果は、従来から、多くの産業に活用されてきた。しかし、近年、異常な気象（気候）状態が頻発するようになり、地球温暖化問題、環境問題などとも相俟って、社会の対応は複雑化してきている。その一方で、気象（気候）の観測・予測・情報通信技術が大きく進展するとともに新たな知見も得られ、そうした事態への対応策を幅広く提案できる技術基盤も整ってきている。こうした背景の下、このセッションでは、次のような観点での発表を募り、産業振興の資を得るとともに実学としての気象研究の課題を涉猟する場としたい。

- ① 気象（気候）が産業に深刻な影響を与えた事例の気象学的分析など
  - ② 産業現場の気象（気候）ニーズ（気象（気候）の影響と深刻度、気象情報・技術の利用目的など）
  - ③ 気象（気候）の情報・技術等の、利用成功・失敗事例など
  - ④ 提供可能な気象（気候）情報・技術（有効な従来情報・技術、最近提供可能となった情報・技術、近い将来提供可能となる情報・技術）
- 講演内容は、上記①～④のほか、他の複合した内

容や研究の中間報告でもよいので、多数の発表をお願いしたい。

**世話人：**若原勝二（札幌総合情報センター）、竹田康生（札幌管区気象台）、波松章勝（日本気象予報士会（北海道））、岩田 修、白石晶二（日本気象予報士会）

### 2. 「静止衛星観測Ⅰ：気象衛星ひまわりの30年」

**趣旨：**静止気象衛星「ひまわり」が打ち上げられたのが1977年7月。それから今年で30年になる。そこで、静止気象衛星が気象学に果たしてきた貢献を振り返り、静止気象衛星がどのようなインパクトをわたしたちの学界や社会に与えてきたのか等、衛星気象学について考えるセッションとしたい。

- ・ 静止気象衛星の現状と課題
- ・ 静止気象衛星のサイエンスへの貢献
- ・ 静止気象衛星の社会への貢献

**世話人：**井上豊志郎（東京大学気候システム研究センター）、川村 宏（東北大学大気海洋変動観測研究センター）、隈部良司（気象庁気候情報課）、中澤哲夫、別所康太郎（気象研究所）

### 3. 「静止衛星観測Ⅱ：静止衛星リモートセンシング観測の新展開」

**趣旨：**近年の世界的な流れとして、大気科学や気候変動研究において、高時間分解能で1日24時間の連続測定が可能な静止衛星観測の重要性が改めて注目されている。現在は「気象衛星ひまわり」のように、主として可視・赤外の限られた波長域を用いた観測が行われているが、近年の急速な技術の進歩により、マイクロ波から赤外域まで連続した熱放射分光スペクトル静止衛星観測が可能となり、欧米では実用に向けた検討を開始している。

これら新しい技術により、どのような新しい現象が解明されるのであろうか。それを明らかにするためには観測データを研究に活用する立場の人たちと、衛星開発を行う人たちが十分に議論を行う必要がある。本セッションでは、熱放射静止衛星リモセン観測フィジビリティ研究によるターゲット物理量（雨/雲/水蒸気，温度，風速，エアロゾル，大気汚染物質，温暖化物質）の観測推定精度に関する議論を基に，地球大気科学，気候変動，環境監視などの衛星観測データを研究に活用する立場の研究者から静止衛星観測への期待・科学的要求を議論する事を目的とする。また，現在運用中の静止衛星・周回衛星と組み合わせた観測や解析の議論も歓迎する。

**世話人：**笠井康子（情報通信研究機構），早坂忠裕（総合地球環境学研究所），秋元肇（地球環境フロンティア研究センター），高橋暢宏（情報通信研究機構）

#### 4. 「さまざまな対流」

**趣旨：**地球を含む諸惑星の大気において，対流はそれ自体として興味ある現象であるとともに，エネルギーや物質などの鉛直輸送を介して大循環や気候に至る大規模な大気構造を拘束する重要な運動構造の一つである。しかし地球以外の惑星大気における対流に関しては観測的情報が不足しており，しかも凝結成分の数や絶対量，放射や地表面過程との相互作用などにおいて，地球大気における熱対流や雲対流と大きく異なると思われる側面も多々あり，十分には理解されていないのが現状である。そこで本セッションでは，地球を含めた惑星大気の“さまざまな対流”に関連した幅広いテーマについて，研究の現状を議論し今後の方向を展望したい。

**世話人：**小高正嗣（北海道大学大学院理学院），中島健介（九州大学大学院理学研究院），高木征弘（東京大学大学院理学系研究科）

#### 5. 「熱帯低気圧の力学研究・モデリング・予報の未来：大山先生・栗原先生の業績を記念して」

**趣旨：**2006年12月に大山勝通先生が逝去され，また，2007年3月には栗原宜夫先生が逝去された。お二人とも気象庁に在職後は，米国の大学や研究機関で熱帯低気圧の理論的・数値的研究に携われ，それぞれ不朽の業績を確立された熱帯低気圧研究の先達である。日本および世界の熱帯低気圧に関する研究にとって，お二人を失った痛手はあまりに大きい。本大会では，熱帯低気圧研究にそれぞれ一里塚を築かれた両先生を記念するセッションを開催する。このセッションでは，お二人の業績を振り返り，それを踏まえて，熱帯低気圧および台風研究の未来を展望することとする。発表のテーマとしては，お二人が取り組まれた熱帯低気圧の発生・発達に関わる諸概念の研究，積雲パラメタリゼーションをはじめとするモデリング，先進的かつ実用的な予報手法の開発など，熱帯低気圧の力学・モデル・予報に関する研究を中心とする。一方，それらと不可分の関係にある熱帯低気圧の観測的・解析的研究からの知見も期待する。また，雲解像モデルや全球モデルによる熱帯低気圧研究なども取り上げる。お二人が残された研究成果に鑑み，特に将来の台風予報・台風観測に資するようなものを期待する。多数の方の発表と聴講をお願いしたい。

**世話人：**山岬正紀（地球環境フロンティア研究センター），吉岡真由美（東京大学海洋研究所），上野充（気象研究所），筒井純一（電力中央研究所），坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター），別所康太郎（気象研究所）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員

の講演を認める。

2. 上記規定を明確にするために、講演申込用紙に講演者の会員番号（非会員は会員である共著者の会員番号）の記入を義務づける。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

## VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2007a@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限: 大会の一般講演と同じ

- 記入事項:
1. 会の名称とテーマ
  2. 代表者の連絡先
  3. 希望日時・開催場所
  4. 予想参加人数
  5. 希望する支援内容